

令和5年度

江戸川区立第三松江小学校

学校関係者評価

最終評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりのある子 仕事をやりぬく子 すすんで学習する子 体をきたえる子 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 	「子供の笑顔が輝きあふれる楽しい学校」「教職員が教えることの喜びに満ちた学校」「保護者・地域から信頼され愛される学校」 「思いやりの心を大切にする子」「豊かに考えを深めていく子」「責任をもって最後まで取り組む子」「明るく活発に運動に取り組む子」 「子供を深く理解する教師」「分かる喜び・できる喜びを味わえる授業をする教師」「生活指導を充実させる教師」
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ICT機器を活用する工夫を行い、児童の学習意欲を向上させることができた。 ・いじめや不登校の未然防止に、校外外の教職員と連携を図り、効果が見られた。 <課題> ・学力面で個人差に対応した指導のさらなる工夫、充実が必要である。 ・体力向上を課題として取り組んだが、目標値達成まで至っていない。引き続き持久力、投力を高める運動を中心に、体力向上を目指していく。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策
				取組	成果		
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①全国学力・学習状況調査にて平均正答率70% ②東京ベーシック・ドリル診断シート平均正答率80% ③家庭学習キャンペーンにおいて、目標とする家庭学習時間数の達成率	B	C	C	基礎学力の定着を目指し、学校が鋭意努力してくれていることはうかがえる。 目標の設定自体に無理があったことも考えられるので、さらに根拠をもった目標設定が必要。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・全学級で探究的な学習の充実を図る。 ・地域図書館との連携を図り、各教科指導の充実を図る。	①調べる学習を充実させ、「調べる学習コンクール」への参加率30% ②学校図書館スーパーバイザーと連携した授業の実践を各学年1回以上	B	※	※	読書科の取組については、地域にまでは浸透していないので、もっと広報活動をしていく必要があるのではないかと。 タブレットの功罪もよく聞かれる。リテラシーの徹底をお願いしたい。
	<デジタル技術の活用能力向上> ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	・ICT機器を活用した授業の実践	①ICT機器を活用した学習を毎日実施	A	A	B	①ほぼすべての学級で毎日ICT機器を活用した授業を行っている。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動に親しむ児童の育成	・体力向上「三松体力チャレンジ道場」の取組 ・運動遊び「わくわくタイム」実施 ・アスリートによる授業、パラスポーツ体験の実施	①認定証を受ける児童70% ②東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査で、都や区の平均を上回る項目50%	A	B	B	②2学期の実施に向けて、計画を立てていく。 ②都の平均値を上回った項目60% ③瞬発系の運動では、多くの学年が平均値を超えた。 ●走力を問われる運動では、平均値を超える学年がなかった。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別支援学級との共同学習の充実 ・特別支援教育に関する研修の実施	①交流学習を実施する学級100% ②特別支援教育研修を各学期1回	A	A	A	①現在までに5年生と4年生が交流学習を実施。今後も継続していく。 ②1学期に研修を開催。2学期も予定している。 ○特別支援教育に対する理解の深まりを得ている。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・アンケート、hyper-QUの計画的な実施、活用 ・毎週の生活指導夕会の充実 ・SC、SSW、外部機関との連携を図る。	①いじめ問題解決100% ②問題行動等の情報把握、未然防止、早期解決 ③校内委員会に関係機関を招いて、月1回定期的に開催	B	C	B	①いじめ認知件数は3件。解決に向けた指導を継続している。 ②学年によって落ち着かない状況もあるが、指導を継続している。 ③校内委員会は毎月開催し、配慮児童の対応方法などを検討共有している。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	・学校ホームページの定期的な更新 ・学校公開を年4回実施	①各学年のHP更新回数2回/週 ②学校公開への保護者参加80%	A	B	B	①HP更新回数100% ②参加率70% ○コロナ禍収束により、参加率は増えてきている。さらに有意義な学校公開にすべく計画していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校行事における保護者へのアンケート実施、分析と公開 ・児童、保護者、学校評議員、教職員アンケートを計画的に実施	①アンケート回収率80% ②アンケート回収後のフィードバック実施100% ●今年度より、アンケートをネット利用	A	B	B	①回収率60% ②学校だよりを通じたフィードバック100% ●今年度より、アンケートをネット利用
特色ある教育の展開	6年生全員参加のプラスバンド	・年に2回、全校児童や保護者を対象に発表会を開く。	①活動終了後の児童の満足度80%	A	A	A	①満足度90% ●楽器にかかる予算の減少により、今後の活動を見直していく必要がある。
	地域人材を生かした学習機会創出	・各学年で地域人材を活用した学習活動を展開する。	①各学年の学習機会2回/年	A	A	A	①各学年とも1回以上ゲストティーチャーを招いた授業を実施。 ○さらに地域人材を発掘し、体験的な学習の機会を創出していく。